日本橋～見付宿

街道歳時記

～春夏秋冬　街道あるき～

地元の人々により代々受け継がれてきた歴史ある祭事や、旅人の目を楽しませる草木花が、江戸当時の街道の趣を感じさせてくれます。ここでは宿場や近隣のお祭り、花の見頃、旬の食べ物などを紹介します。街道歩きの日程プランを立てる際にご利用ください。

【春】…3～5月　【夏】…6～8月　【秋】…9月～11月　【冬】…12月～2月

日本橋

芝大神宮　だらだら祭り

例年9月11～21日の11日間にかけて行われる、日本一長いお祭り。変わった名前の由来は、江戸時代に「関東のお伊勢様」と、関東近県から参拝者がひっきりなしに訪れ、だらだらとお祭りが続いたことから。境内に生姜小屋が設営されることもあり、「生姜祭」ともいわれている。16日の例大祭祭儀前後2日間には狂言奉納や江戸囃子などの催しも行われる。また、隔年で行われている本祭りでは氏子町内神輿の連合渡御があり、三十基近くの神輿が連なり練り歩く。

【その他の祭り】
- 花まつり（増上寺4月）
- 佃島念仏踊り（7月）
- 京橋祭り（日本橋10月）
- 赤穂義士祭（泉岳寺12月）

品川宿

荏原神社　天王祭

宝治元年に京都八坂神社から牛頭天王が荏原神社に勧請されたことから始まったお祭り。毎年6月上旬に行われる。江戸時代には大江戸夏祭りのひとつとして大変にぎわった。現在は都内で唯一の御神面を神輿につけての海中渡御が行われている。別名は「かっぱ祭り」。御祭神の素戔嗚尊が水神様で、かっぱが水神様の使いであることから、祭礼の参加者たちをかっぱになぞらえたことによる。

【その他の祭り】
- 荒神祭（海雲寺3、11月）
- 磐井神社例大祭（磐井神社8月）
- 品川寺大祭（品川寺9月）
- しながわ宿場まつり（10月）

川崎宿

川崎山王まつり

稲毛神社は、江戸時代末期までは河崎山王社と呼ばれ、東海道川崎宿の総鎮守として信仰を集めた。夏の祭礼「河崎山王まつり」は東の祇園と呼ばれ、にぎわったという。現在川崎山王まつりは8月1日に宵宮祭、2日に例祭が行われ、例祭当日に行われる古式宮座式は県民俗文化財に指定されている。祭礼最終日には孔雀・玉と呼ばれる男女二神の神輿が氏子町内を巡る神幸祭が行われる。この神幸祭には、神々の結婚、懐妊、御子神の出産の物語が隠されていると伝わっている。

【その他の祭り】
- 菅生神社の例大祭（菅生神社10月）

神奈川

蛇も蚊も祭り

毎年6月に横浜市鶴見区の生麦地区で行われるお祭り。本宮の道念稲荷神社と原の神明社の二カ所で行われる。変わった名前の由来は蛇にまつわるもの。昔、亡き妻との約束を破った男の前に、妻が大蛇の姿になって出てきた。茅などを軒先に備えると大蛇は去っていったことから、この地域で茅を材料に大蛇を作り、子どもに担がせるようになったという。かつてはお祭りが終わったあとに、担いだ大蛇を近くの鶴見川に流すことで、そこから川で遊ぶことが許されたといわれる。

【その他の祭り】
- 洲崎大神ちょうちん祭り（洲崎神社6月）
- 天王祭（橘神社6月）
- お馬流し（本牧神社8月）
- 本えびす（本覚寺1月）

戸塚宿

八坂神社例祭とお札まき

毎年7月の例祭（7月14日）の夜に行われるお札まきは、境内の踊りから始まる。町内を巡りお札をまきながら再び神社に戻ってくるというもので、踊り手は派手な着物に化粧をした男衆。音頭取りが一節を歌うと、踊り手は輪になって復唱する流れで続いていく。

元禄時代の東海道ではすでにこのような「お札まき踊り」があり、当初は歌や踊りを演じて各戸をまわり、寄付を募っていたといわれている。

【その他の祭り】
- 夏祭り（富塚八幡宮8月）
- 戸塚宿場まつり（10月）